

第1回東京都聖火リレー実行委員会

<概要>

2018.07.10

東京都聖火リレー実行委員会の検討・実施事項

＜実行委員会の検討・実施事項＞

2018年

- 聖火リレールート案の選定
- セレブレーション会場案の選定

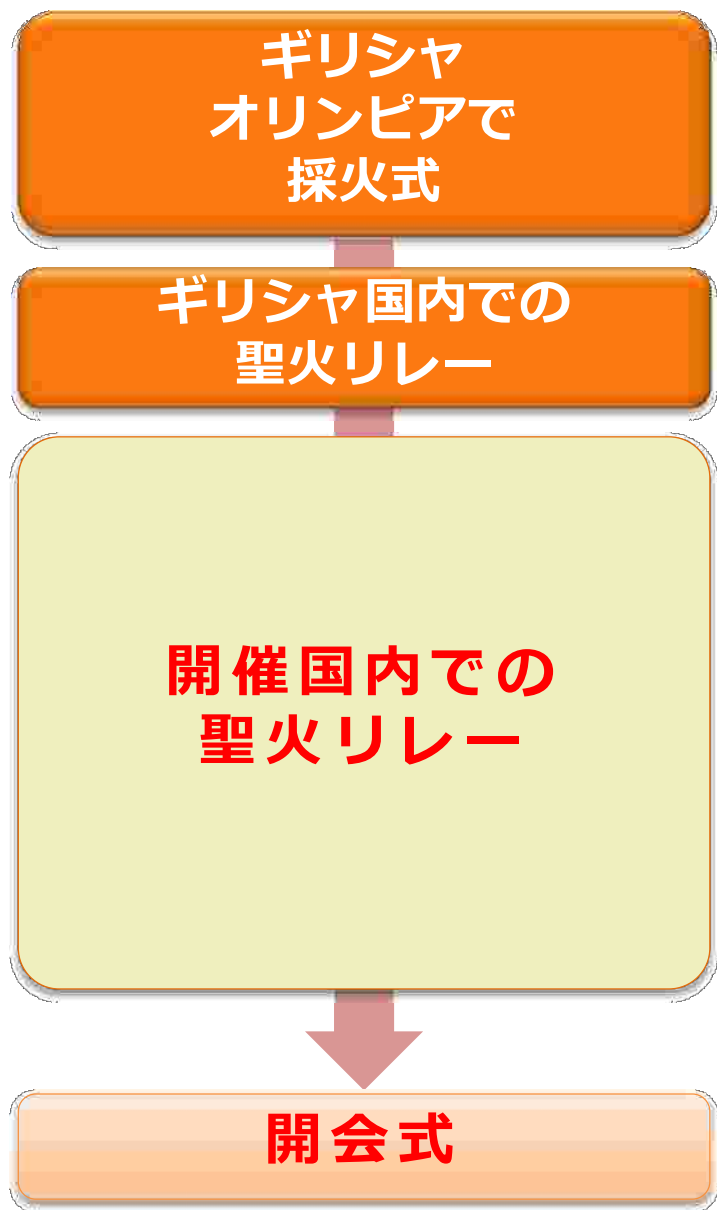
2019年

- ランナー選考計画の策定及び公募・選考の実施
- 聖火リレールート・セレブレーションの具体的内容の検討

2020年

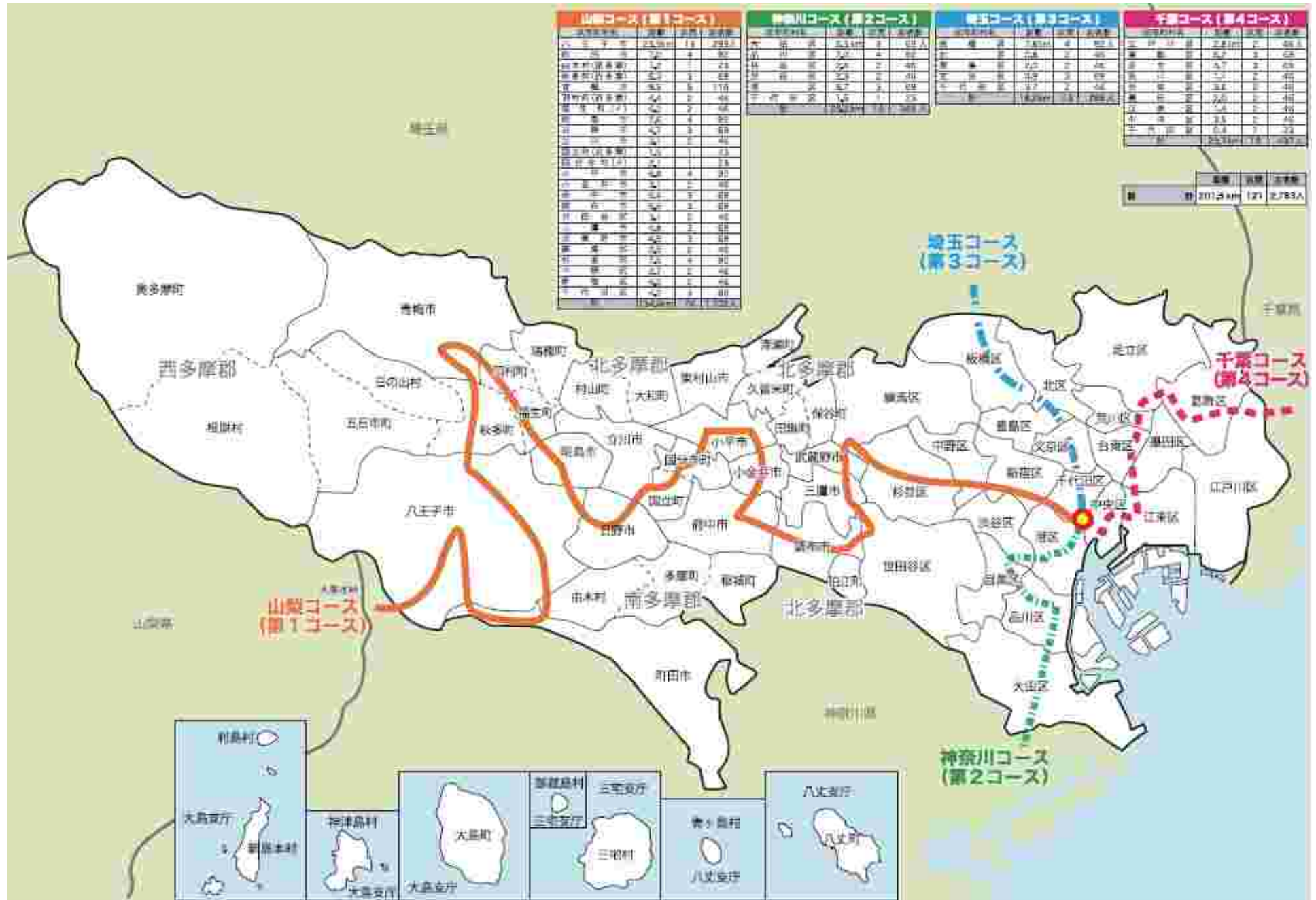
- 聖火リレーの実施

オリンピック聖火リレーとは



- ギリシャ・オリンピックの太陽光で採火された炎を、ギリシャ国内と開催国内でリレーによって開会式までつなげるもの。
- オリンピックのシンボルである聖火を掲げることにより、平和・団結・友愛といったオリンピックの理想を体現し、開催国全体にオリンピックを広め、きたるオリンピックへの関心と期待を呼び起こす役目を持つ。

<参考> 1964年東京オリンピック聖火リレー東京都内コース図



東京都立図書館資料

オリンピック聖火リレーの概要

IOC/HOC
(ギリシャ
オリンピック
委員会)
所管

ギリシャ (7日程度)

ギリシャ・オリンピアでの採火式

ギリシャ国内での聖火リレー

ギリシャ・アテネでの聖火引継ぎ式

聖火航空輸送

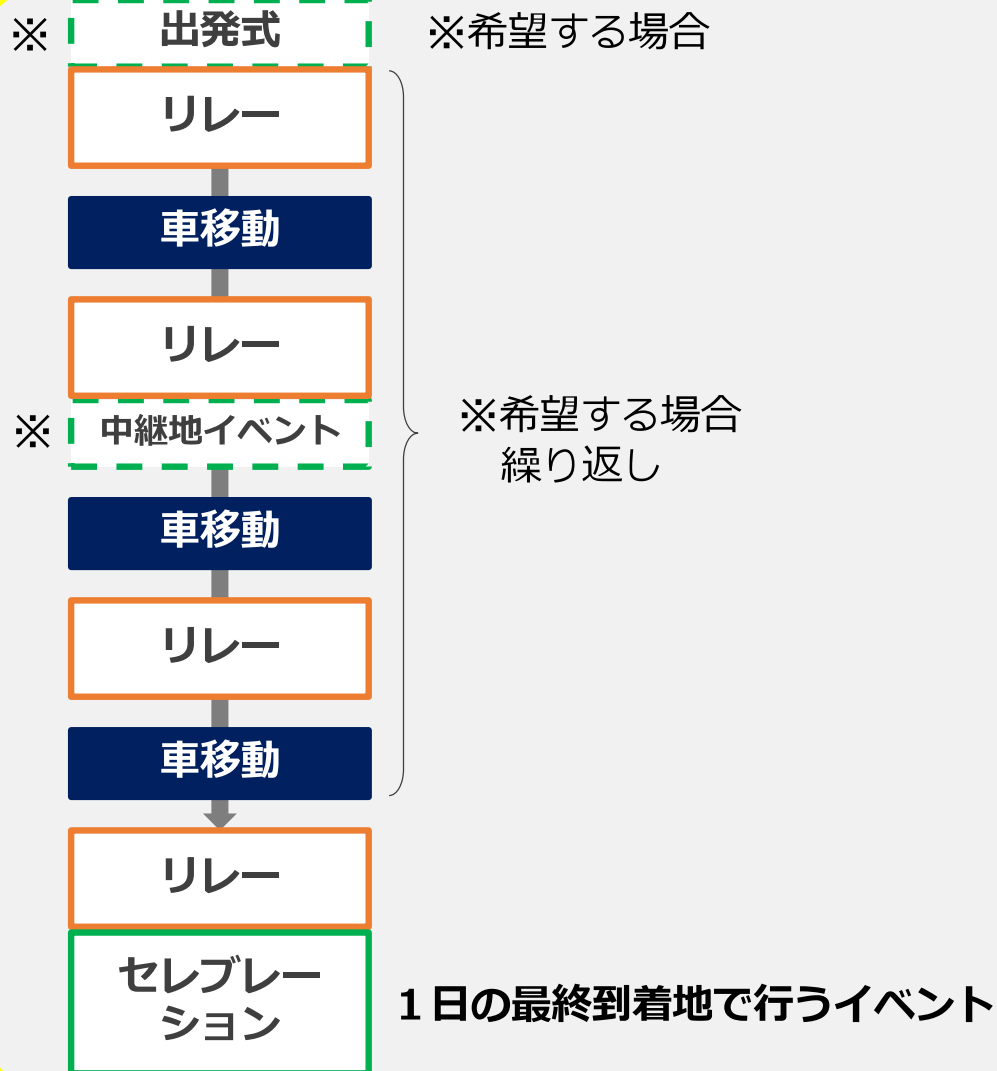
開催国

国内空港での聖火到着式

国内聖火リレー

開会式

東京2020
所管



聖火リレーの主なルール

【オリンピック聖火リレー】

- 聖火を分けて運んではいけない。

【パラリンピック聖火リレー】

- オリンピック選手村の閉村後から開会式まで、最低7日間で行う。
（東京2020大会では最長13日間）
- 最低2日間は開催都市で聖火リレーを行う。

【共通】

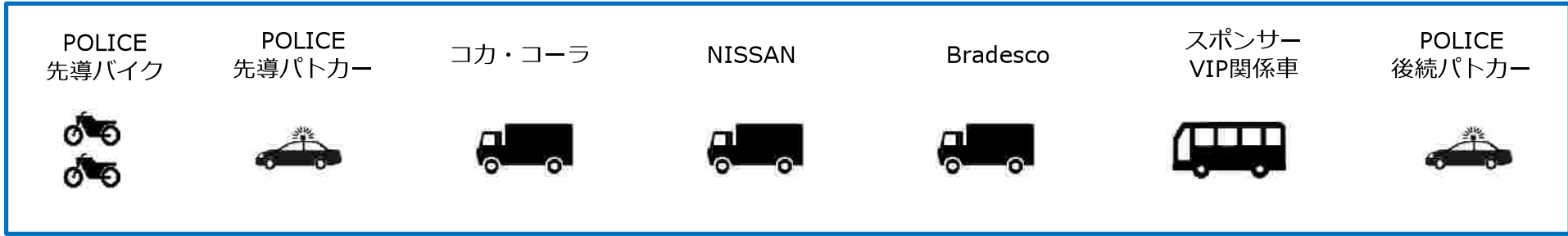
- 聖火はリレーの後に残ってはならない。（通過後に消灯する。）
- 関連するイベントは無料イベントとする。
- 聖火を商用目的で使用してはならない。
- トーチ、聖火台等の聖火リレーに関わる装置はIOCの許可なしに使用できない。
- コスチュームキャラクターが聖火を掲げたり、聖火をショーの小道具として使用してはならない。

<参考> 1964年大会と東京2020大会のオリンピック聖火リレーの比較

		1964年大会	東京2020大会（見込）
ルート	聖火を分火すること	○	×
	都内のルート数	4ルート (山梨・神奈川・埼玉・千葉)	1ルート (どの県から都内に入るかは未定)
	都内リレー日数	各ルート1~2日	15日間
	通過区市町村	44/64団体	62/62団体
ランナー	ランナーの対象者	16~20歳の 体力のある日本人	すべての人々 ・国籍/障害の有無/性別/年齢 のバランスに配慮 ・幅広い分野から選定
	リレー隊の編成	あり ・正走者1名/副走者2名 ・伴走者20名以内	なし (正走者1名のみ)

聖火リレーの隊列（リオ2016大会）

① 先行車



聖火ランナー
配置バス



② 本隊車



聖火ランナー
回収バス



③ 後押車



セレブレーション（ロンドン2012大会）

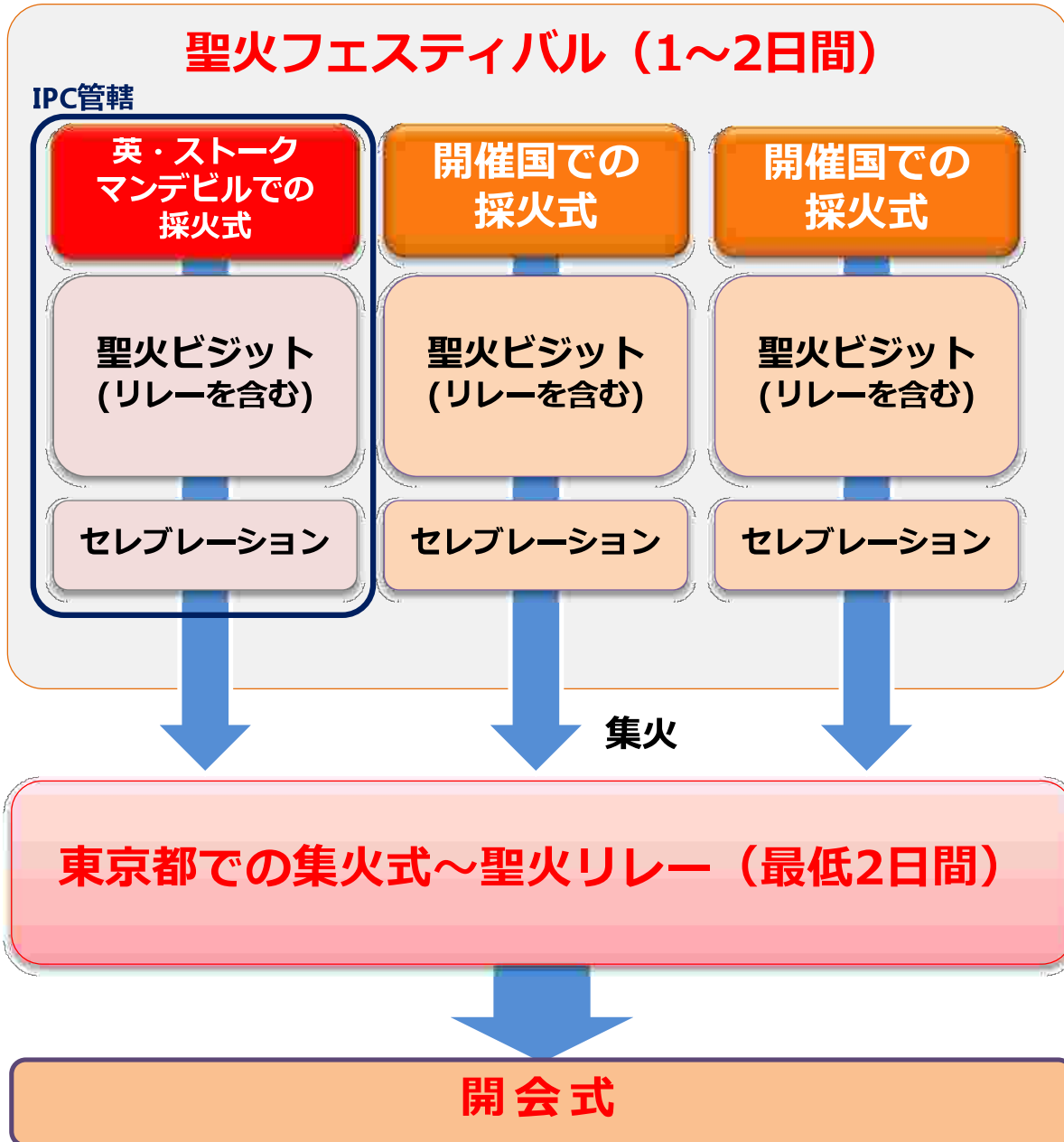
- 聖火の到着を祝うイベントで、毎日の聖火リレーの終わりに行うことが推奨されています。
 - 1日のリレーの最終到着地のセレブレーション会場では、自治体や聖火リレースポンサー各社がそれぞれ演出を行い、最後に聖火ランナーが到着し聖火皿に点火して1日のリレーが終了となります。
- ※あくまでも聖火が中心の無料イベントでなくてはならないとされています。

セレブレーションの様子



組織委員会作成資料
(東京都一部編集)

パラリンピック聖火リレーとは



- オリンピックからの移行期間中に勢いや興奮を維持し、人々にパラリンピックの精神及び価値を伝える役目を持つ。
- オリンピック選手村の閉村後 (8/13) から開会式 (8/25) の最大13日間のうち、最低7日間行う。
- イギリスのストックマンデビルと、日本国内複数都市で「聖火フェスティバル」を行う。(都市は地理的バランスを考慮)
- リオの聖火ビジットは、パラスポーツのトレーニングセンター、特別支援学校、リハビリセンター、コミュニティセンターなど4~5か所の施設を訪問した。
- 最低2日間は、開催都市東京都で集火して聖火リレーを行う。

東京2020オリンピック聖火リレーの概要

- コンセプト

Hope Lights Our Way – 希望の道を、つなごう。 –

- 総日数

114日間に移動日を加えた日数

※東京都：15日（2020年7月10日（金）から7月24日（金）まで）

- 実施場所

47都道府県

ルート選定の基本的な考え方

- 日本全国47都道府県を回り、出来るだけ多くの人々が見に行くことができるルート
- 安全かつ確実に聖火リレーが実施できる場所

その上で

- 地域が国内外に誇る場所や地域の新たな一面を気づかせる場所
- 聖火が通ることによって人々に新たな希望をもたらすことができる場所

聖火ランナー選定の基本的な考え方

対象：全ての人々

- 国籍、障がいの有無、性別、年齢（※安全なリレーのために下限年齢を設定）のバランスに配慮しながら、幅広い分野から選定し、開かれたリレーとする
- 地域で活動している人を中心に選定

復興・不屈の精神（支えあう心）

- 日々の生活の中でも、家族、仲間、同僚などお互い支えあって、諦めずにどんな困難にも立ち向かう人

違いを認めあう包容力（認めあう心）

- 様々な人との違いを認めあいながら新たなものに取り組んでいる人

祝祭による一体感（高めあう心）

- 聖火ランナーとして走ることで、地域の一体感を高めあうことができる人

※聖火ランナーとして走ることを宗教的・政治的な目的のために利用しない。（IOC聖火ランナー選定ルール）

組織委員会作成資料

今後の検討スケジュール

- 平成30年9月頃 第2回実行委員会
・リレールート素案・セレブレーション会場素案の検討
- 平成30年11月頃 第3回実行委員会
・リレールート素案・セレブレーション会場素案の修正案の検討
- 平成30年12月頃 第4回実行委員会
・リレールート案・セレブレーション会場案の選定

ルート・セレブレーション会場の選定に係る主な論点

- ① 都内出発地・区市町村の巡回順をどのように選定するか
- ② 地域が国内外に誇る場所として、東京を象徴するランドマークやビュースポット、1964年大会のレガシーや東京2020大会新規会場などを巡回してはどうか
- ③ 各区市町村内のルートや走行距離をどのように設定するか
- ④ セレブレーション・出発式・ミニセレブレーション会場をどのように選定するか
など